

医学図書館員の視点から読む 「言いたくても言えなかったひとこと」

東邦大学医学メディアセンター 佐倉病院図書室 下原 康子

『言いたくても言えなかったひとこと 医療編』ライフ企画 1997

この本は、医療に関する「思い」を短文で、という出版者の募集に応じて、全国から寄せられた7481通もの応募の中から344点を選んで作られました。

この中で、医学図書館員という仕事をしている上で無視できないいくつかの一言に出会いました。それらを紹介しながら、医学図書館員がその一言にどのように関り、どのように応えることができるかを考えてみました。

1. 当事者

「当事者」という重要なテーマを提示した2題を紹介します。

私たちは医療者に医学情報を提供することを通して、患者さんの治療に関っています。

しかしながら、その情報をもっとも欲しがっている当事者である患者さんにもその情報を届けたいと思わないでしょうか。

2. 患者は知りたがっている

もっとも多く寄せられたテーマです。自分の身体で何がおこっているのか、もらった薬が身体の中で何をしているのか、この先どうなっていくのか、なにを根拠に治療を選択すればいいのか、なぜ母は亡くなったのか。これらの切実な疑問の数々を納得へと導くために私たちができることはないでしょうか。

3. 医療者

私たちの一番のお得意様である医療者。サービスのコツは相手を知ることです。それは彼らを取りまく社会状況や勤務状態に関心を持ち、彼らの身になって考えてみることでもあります。

4. 誰のために

私たちに向けて発せられたと思われる一言もありました。自戒の念をこめて。

5. 患者になった医学図書館員が願ったこと

医学図書館の一般公開
公共図書館と医学図書館の連携
病院に患者図書室
病室でインターネット
インターネットで国内医学文献を検索